



11・6・11(土) 南NEWS NO16

自分たちのめあてをしっかりとって 試合・大会に臨もう！！

試合前に指導者からどんなに気合いを入れられてもプレーする子ども達が今日の試合はどんなめあてで戦うかを確認せず、なんとなく試合に入れば結果は見えています。

アジリティがない、だからドッチング(はさみこみ)もない、周囲を観て判断しアイデアをもち、伝えあうコミュニケーションもないという試合を展開し、敗戦を繰り返すこととなります。

勝つために何をしようかというめあてのないチームは羅針盤のない船、リーダーのいない船団と同じです。迷走の果てに難破するのです。

どう戦うか、チームのめあてをもって試合に臨むよにしようね。自分たちの試合だものね。自分たちで考えて創っていこうね！！

b y 南のアンパンマン

6年生 GK牛窪君のGAMBANOTEより

全日本大会12B予選 4月29日 文化大G

- ☆自分のめあて ・サイドチェンジ ・ボールを正確にキャッチする
- ☆チームのめあて ・サイドチェンジ ・コンビネーションプレイ
- ・あたりを強く ・コミュニケーション

○1試合目 VS 西八 2-0 勝ち

細川君がクリアしたボールを吉田君がつかないで加藤君がシュートして得点。

※振り返り サイドチェンジができなかった。裏を取られてしまった。

※フィードバック 裏を取られないようにしたい

○2試合目 VS 陶鎔元八 2-1 勝ち

フリーキックをキャッチミスして失点。

吉田君がラインを切りそうなボールをシュートして得点。

※ミスをしないうようにしたい。

予選を突破できてよかった。



……1次突破できてよかったね。キーパーの大切な役目はコーチングです。

5月3日もGAMBA！！……

b y 南のアンパンマン

全日本大会2次トーナメント 5月3日 北河原G

- ☆自分のめあて ・サイドチェンジ
- ☆チームのめあて ・サイドチェンジ ・アジリティ ・コーチング
- ・コンビネーションプレイ

○第1試合 VS 東八王子 2-2 2pk4負け

※振り返り 工藤君のドリブルがよかった。

アジリティもできていてよかった。

相手と1対1の時、飛び出すタイミングが悪かった

……アジリティがよくて数的優位がいつもできていたね。“渡り廊下”を使う、DFのつるべ、コーチング、最後まで集中ができていたら2つ勝ってもおかしくない内容だったよ。本当に惜しかったね。この悔しさを次に生かそうね。……

b y 南のアンパンマン

以下のレポート (b y 千野 Jr ユースコーチ) は6月5日当日、田中 Jr ユースコーチよりのファックスで矢上の元に届けられました。この日の午前中に行われた3年生の拓大杯の試合の結果・様相も能登コーチからの電話で把握することもできました。次の練習の時に子ども達に声をかけることができます。嬉しいです。子ども達を大切に仲間を感じました。



拓大杯 Jr ユースの結果 6月5日 拓大陸上競技場

南八王子 Jr ユース 0-1 ウェスト 前半 0-1

3年生4人、2年生7人という11人ぎりぎりでの戦いを強いられた南でしたが、0-1という敗戦結果以上のGAMBARIを魅せてくれました。

前半立ち上がり、まだ試合が落ち着かない段階でバイタルエリアを相手にうまく使われ、ワンツーパスから落とされたボールを受けた選手に正面からミドルシュートを撃ち込まれてしまいました。

しかし、その後は終始南のペースでした。特に後半は、MFの安里選手、中川選手、FWの山崎選手がスピードを生かした突破で相手を翻弄し、惜しい場面を多く創りました。相手のカウンターを受けたときには、CBの上倉選手を中心にDF陣が懸命なGAMBARIを見せ、決定機をほとんどつくらせませんでした。

シュートをポストに当ててしまったり、GKとの1対1の場面で外してしまうなど、決定機をしっかり決めていけば勝てた試合ただだけに、この試合は惜しい敗戦となりました。選手の皆さん、お疲れ様でした。

b y 千野 Jr ユースコーチ

「天声人語」より 6月8日(水) 朝日新聞朝刊

〈行き先を知らずして、遠くまで行けるものではない〉。ゲーテの言葉である。目的地が定まらないと足取りが重くなる。そんな意味だろう。逆に、確かな目標があれば急坂……

この天声人語を読み始めてすぐに子ども達ことを想うかべました。

私は、授業でもサッカーでも、課題に対してまず一人ひとりが取り組むことによって自分を育て、自分の考えや想いを伝えあい・学びあうことで互いに育ちあうことを大切にしています。教える内容がたくさんで難しくなっていますが。

短期・中期・長期のめあて・目標がゲーテの「行き先」になりますね。その達成をめざしてM-T-M(試合-練習-試合)を繰り返す活動で遠くにあった目標に到達できるものと考えています。勝つ喜び・達成感・成就館を味わえます。

これについて、子ども達にはその意味・意義、必要性を話し、常々コーチの皆さんにも指導者会議等でお話しし、徹底をお願いしているものです。

具体的には、3年生以上(できれば2年生から)の子ども達に自分のめあて・チームのめあてを考えさせ、話し合わせて試合に臨むことです。GAMBANOTEにめあてを記入し、達成を振り返り、課題を次にフィードバックさせることで自分を育て、互いに育ちあっていくのです。高学年では、課題解決のためにどんな練習をしたよいかも考える力も育むことができたかと想っています。午後練でも取り組んでいきます。

私は教育の目的は3つの力をつけるためだと考えて実践してきました。

- ① 真実を見抜く力(だまされない力) ② 手をつなぐ力(共生・協働する力)
- ③ 自己変革する力(学ぶことで自分の考えや生き方を変える力)

以上の力を育んでもらいたいのです。サッカーを楽しむ中で“優しく強い子”に育ってほしい、3つの力を育んでほしいと願い、日々活動しています。

南八王子サッカークラブ代表 矢上健一